

事務事業マネジメントシート(平成26年度実績と平成27年度計画)

平成28年 2月17日更新

事務事業名		こころの相談事業				<input checked="" type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input checked="" type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input checked="" type="checkbox"/> 集中改革プラン関連		
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	健康福祉部	課長名	鍛野 文昭
	施策	15	健康づくりの推進				所属課	健康づくり推進課	担当者名	福本 美恵子
	基本事業	44	病気の早期発見				所属班	健康推進班	(内線)	2132
予算科目		会計一般	款 4	項 1	目 1	事業連番 10365	法令根拠	精神保健福祉法		成果優先度評価結果 : ⑦
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 26年度で終了 <input type="checkbox"/> 26年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)			
予算科目								コスト削減優先度評価結果 : ⑥		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	毎月1回、精神科医師による相談事業を実施している。①広報誌・健康づくり事業計画表により周知。電話や来所(予約制)、本人や家族による相談を受ける。 平成14年度までは県が実施主体であった精神保健に関する事業の一部が市町村のに移管されたことに伴い、相談事業を強化する目的で専門医をスタッフに含めた体制とした。 相談者数は年間10件程度であるが、病院まで行けない人、また、対応に困っている家族への支援に寄与している事業である。平成24年11月から、こころの病気の早期発見のため、心の健康状態をパソコンや携帯電話から簡単にチェックできる「こころの体温計」システムを導入し、ホームページに掲載している。
【業務の流れ】	相談事業：電話及び窓口相談により解決しない場合、相談日を設け実施する。日程・時間は予約制。 こころの体温計：各自でホームページよりリンクし、使用。
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	相談者数は横ばい。健診の機会等も利用し、今後も周知をはかり早期相談に繋げたい。こころの体温計利用者は導入当初から比べると減少している。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 26年度実績(26年度に行った主な活動)(DO)	27年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
こころの相談：6日間、9件実施。こころの体温計：アクセス数10,572件/3月末	相談事業：年間7回の実施。1回の相談日で2枠相談可能。こころの体温計：常時市のホームページに掲載している。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア: 相談回数	回 昨年度おり実施のため、増減理由はなし。
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
こころの悩みを抱えている人。	(単位) 人
→ ア: 相談者数	→ ア: 相談者数
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
こころが元気になる。適切な医療につながる。今の状況を改善するきっかけになる。	(単位) 人
→ ア: 受診をすすめた人の数	→ ア: 受診をすすめた人の数
	イ: 相談を受けて元気がなった人の割合
	%
*③成果指標設定の理由と27年度目標値設定の根拠	
相談に来所した家族や本人が相談することで、こころが元気になることを目的とするため、成果の指標を相談を受けて元気になった人の割合とした。また、場合により、医療機関を受診することが必要な人もいるため、成果の指標として受診をすすめた人の数とした。	
総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	24年度 実績(決算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	26年度 実績(決算)	27年度 目標(当初予算)	28年度 予定	29年度 見込	30年度 見込	
① 活動指標	ア	回	7	6	7	6	7	7	7	7	
	イ										
	ア	人	11	9	11	9	11	11	11	11	
② 対象指標	イ										
	ア	人	4	3	4	2	4	4	4	4	
③ 成果指標	イ	%	90.9	88.9	100	100	100	100	100	100	
投資 入 費 量	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
	(A) 事業費計	一般財源	千円	275	181	207	184	207	207	207	207
		(A)のうち指定経費	千円	275	181	207	184	207	207	207	207
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	7	6	7	3	7	7	7	7
		延べ業務時間	時間	169	158	160	332	160	160	160	160
(B) 人件費計	人件費	千円	687	629	637	1,322	637	637	637	637	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	962	810	844	1,506	844	844	844	844	

事務事業名	こころの相談事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	----------	-----	-------	-----	----------

2 評価の部 (SEE)

*原則は26年度の後評価、ただし複数年度事業は26年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①26年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した 電話相談や他課からの紹介等により、こころの相談につなげることが出来た。目標値への達成はできなかったが、相談者に対して今後の方向性や対応について等改善に向けてのきっかけ作りとしては重要な事業だと思われる。	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】
	②27年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 年間の日程が決まっており、随時案内はできない状況。そのため、相談内容によっては、医療機関や関係機関への紹介を必要に応じて行っていく。	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 こころの相談について広報誌・すこやかカレンダー等での周知のみならず、健診時など多くの機会を捉え周知していく。	<input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 近くで他に類似した事業はない。	<input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 医師への報酬等については、前年度同様。これ以上の削減余地はない。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 事務に係る時間数も最小限で行っておりこれ以上の削減余地はない。保健師という専門職が対応することが大事な事業である。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 相談を受けたい人を対象にしているので、公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 窓口として職員で対応し、より専門職への相談につなげている。

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

相談者数が横ばいの状況。相談日が決まっていることもあり、タイムリーに相談につなげることができない場合もあった。しかし、身近な相談できる場所として今後も周知を行い、必要な人が相談できる場として。また、自分の心理状態に気づき、早めに身近な相談機関に相談できるようこころの体温計を導入している。アクセス総数は10,572件3月末現在、平均881件/月である。アクセス数の伸びやこころの相談者数の状況をみていきたいと思う。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 周知に努め、相談体制を整えておく。	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 こころの相談の相談者は横ばい、こころの体温計利用者は減少傾向にあるため、周知を行い相談体制を整えておく。																						